

1月の園だより

令和8年1月8日

杉並区立西荻北子供園

園長 須田 なぎさ



新しい年を迎えて、未来への一歩を

園長 須田 なぎさ

新年あけましておめでとうございます。年末年始は、ご家族でゆっくり過ごされたでしょうか。

子どもたちの元気な声が園に戻ってきました。

今年度も残すところ3学期の約50日となり、いよいよ一年のまとめの時期です。一人ひとりが自信をもって進級・進学を迎えられるよう、過ごしていきたいと思います。

先日、気候変動について長年取り組んでおられる平田仁子さんのお話を伺い、深く心を動かされました。

現在の地球は、大気中のCO₂濃度が急激に増え、「地球沸騰化」とも言われる状態にあるそうです。このまま何もしなければ、今の子どもたちが大人になる頃には、気温上昇や高温の発生頻度がさらに高まるといわれています。グラフで示された近年の急激な変化には、強い危機感を覚えました。

脱炭素に向けて、節電やエコバッグの持参といった日々の行動だけでは追いつかないほど、状況は深刻で、本当に必要なのは、社会全体の仕組みを変える“システム・チェンジ”だという言葉が強く胸に残りました。化石燃料からの脱却、エネルギー効率化、再生可能エネルギーの拡大、電化の促進などを進めることが重要だそうです。

では、このような大きな課題に対して、私たちにできることは何でしょうか。平田さんは、「好きなものを守る」という視点から始めることを提案されていました。好きなもの、大切に思うものがあるからこそ、人はそれを守り、未来を選び取ろうと行動するのだそうです。

園では、子どもたちが元気を生む楽しい体験や自然体験を通して、「好き」を育てていってほしいという言葉に、今の保育が未来につながっていることを改めて感じました。

園には、虫探しが大好きな子どもたちがいます。夏や秋には夢中で虫を追いかけていた子どもたちも、最近は「いないね」と残念そうにしたり、「寒いから土の中にいるんだよ、きっと」と話したりしています。寒さとともに虫の姿が見えなくなること、子どもたちは自然と気付いていきます。

その“好きだからこそ気付く変化”は、自然への関心や思いやりの芽そのものだと感じます。子どもたちが自然の中で出会う「大好き」は、未来の地球を守る心につながる大切な種です。

今年も、園での豊かな体験を通して、子どもたちの“好き”がたくさん育っていくよう、丁寧に寄り添っていききたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

